

## 60周年特別室

室長 山室 透  
親和塗料



1953年7月1日、愛する故郷のため今自分たちにできることをやろうと考えた青年35名によって、全国で42番目・九州で4番目の青年会議所として社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)は産声を上げました。それから60年の長い年月の中で、その時代の諸問題に真向勝負し、地域に必要なとされる事業展開を行い、そして故郷を想い続けてきた諸先輩方の熱い思いこそが今の飯塚JCの礎になっています。

この地域は、この60年間で産炭地復興運動や産炭地時代の歴史的遺産を利用した観光都市化、大学などを中心とした研究開発と産業振興の拠点としての学園情報都市化、県央としての交通インフラ整備などによって発展してきましたが、近年の全国的な経済不況に伴って我々の地元経済も打撃を受け、疲弊した地域となっている現状は否めません。

その中に生きる私たち青年にできることは何かを考えたとき、今一度、創始の精神から学び、この状況を打開しようとする情熱を持つことだと思います。そこで本年度は、「60年目の原点回帰」のスローガンの下、現役メンバー一人ひとりがなぜ青年会議所運動をしているのか真摯に考え、自らの行動を一步でも前に進めることによって各自が成長し、飯塚JCが大きく飛躍の一年になることを目標とし行動を起こしていきます。

そのためには、一人ひとりが創立60周年事業の全ての役割に目的意識を持って臨み、率先して行動に移すことで、現役メンバー全員が一丸となって真向勝負をします。

創立記念においては、諸先輩方と現役メンバー全員で創立記念日を祝賀し、創始の先輩に深い感謝の気持ちを抱き、各自が多くの諸先輩方と交流し今後の青年会議所運動に活かせる場とします。

創立記念祝賀会においては、今まで60年間、飯塚JCの発展に多大な支援をいただいた行政・団体・企業などの多くの方々と共に、更なる地域発展のために共助の体制ができる交流の場とします。

創立記念誌においては、創始から現在までの青年会議所運動を検証

し、多くの方々に私たちの運動を理解していただけるツールとして作成し、私たちにっては貴重な財産として今後の事業展開に活かせる資料として作成します。

創立記念基調講演においては、来場していただいた方々が会社・家庭・社会において、今できることの考えるきっかけをつくり、自分自身が今後人生において目的を持って生きていくことの大切さに気付いていただく貴重な時間を創出します。

創立記念事業においては、愛する故郷の歩んできた過去とこれからの未来をしっかりと見据えて、地域の方々はこの地域に生まれて良かったと誇りの持てる事業を行います。そのためには、2市1町の多くの方々と連携し、この地域にある財産に改めてスポットライトを当て、地域内外の多くの方々に私たちの財産の良さを発信し知っていただくことで、地域の方々には財産を誇りとして再認識していただきます。

創立記念広報においては、全ての創立60周年事業にはひとりでも多くの方々に来ていただき、私たちの青年会議所運動に共感していただきたいと考えています。そのためには、様々な手段を用いて広く事業内容を周知していく広報の実施を行っていきます。

この60年間で、地域は様々な状況変化に伴って変動してきましたが、私たちの青年会議所運動には普遍的なものがあると考えます。それは、私たちの原点である「人が人を想い、地域を想う心」で、今も創始から変わらず青年会議所運動の根幹です。この想いを、多くの方々に共感していただき、一人でも多くの方々と共に愛する故郷の更なる発展のために行動し、全ての創立60周年事業に全身全霊を掛け臨んでいきます。

### 60周年特別室 メンバー



副室長  
外山 武志  
株式会社KMG

委員長 坂口 天志  
株式会社飯塚電設

## 例会委員会



例会とは、青年会議所運動の根幹であり、情報を共有するための場です。

すなわち、メンバーが一堂に会し、理事長の想いや各委員会の状況を把握する場であると考えます。これらの情報を共有するためには、まず発信されることが必要になります。しかしながら、現状の例会における各種報告だけでは、情報を共有するための発信がまだ十分ではないと考えます。

そこで、60周年の節目を迎える今年度の例会は、原点回帰をテーマとして、青年会議所運動における例会の位置づけを見直す一年と致します。

初代理事長をはじめ、多くの先輩方から脈々と受け継がれてきた「私たちの愛する人、まちのために出来ることを、私たちが先頭に立つて行く」という想いをメンバー一人ひとりが再認識し、毎回の例会で、各種報告を確実に実行し、伝えていくことで、その都度社団法人飯塚青年会議所が向かう

べき方向性や各委員会の状況を全員で共有していきます。そうすることで事業などが行われる際には、メンバー全員が一丸となって行動できるような連帯感が醸成されると考えます。

連帯感とは、「仲間としてお互いに助け合おう」ということです。これはお互いを知ること、つまり情報の共有がなければ、決して生まれることはありません。全員で同じ時を過ごしながら、学び・議論することで、連帯感が高められると考えます。また、そうした仲間がたくさんいるということは、日々の生活において必ず自分の助けになると確信します。

厳粛な式典運営だけでなく、メンバー全員が出席したくなる魅力的な自己の成長に繋がるアワー内容、そして情報の共有を可能にする例会全体の構成を企画し、実行して参ります。さらに各委員会との連携を今まで以上に図ることで出席率の向上に繋げていきたいと考えます。

### 例会委員会 メンバー

 副委員長 浅田 智之 ダイワ印刷株式会社	 斧山 有史 ほなみ幼稚園	 神田 頭 株式会社南風堂	 齊藤 壮史 株式会社齊藤造園	 高崎 英徳 株式会社高崎クレーン
 戸田 徹 カーコンビニ倶楽部 沼川店	 古谷 和雅 株式会社古谷金物店	 淵上 拓也 パームハウス	 山口 孝敏 写真の和光	

2012年情報発信委員会制作

- 委員長/堤 考史
- 委員長/岸田 貴靖・重松 将貴・田代 陽子・塚原 大悟・寺濱 剛史
- 委員長/長岡 敦史・古田 明裕・山口 孝敏
- 担当室長/畑中 規一
- 副委員長/木下 太

表紙撮影：写真の和光 2012年12月発行



VOICE

# 60<sup>th</sup>

## ANNIVERSARY

JCI

## INDEX

- 2012年度活動報告 1P~4P
- 2012年度創造街道 ~一年間の歩み~ 5P~6P
- 2013年度理事長所信 7P
- 2013年度委員長所信・会員紹介 8P~11P

# 2012 ~2013

## IIZUKA

Junior Chamber NEWS vol.58

社団法人 飯塚青年会議所

# 2012年度活動報告



12.1.6 新春祝賀会



12.9.4 総会(1月、6月、7月、9月、11月)



12.10.12-14 第61回全国会員大会  
北九州大会(卒業式)



12.5.20 憲法を身近に感じよう  
(和の彌蔵委員長 寺濱)

創造

～己を信じて明るい未来を～



12.1.20-22 京都会議



12.10.27 ブロックアワードプレゼン  
飯job最優秀賞受賞



12.3.11 東日本大震災募金活動

## 2012年度 60周年特別準備室

室長 久保井 英樹

我々60周年特別準備室では来る60周年に向けた事前準備事業として、飯塚JCのこれまでの59年の活動の歴史を知ることから始めようと創立時よりの各世代の理事長経験者の先輩方にもご協力いただき、歴代理事長パネルディスカッション「飯塚JC59年の記憶 夢と希望と青春と」を創立記念日である7月1日に開催いたしました。

戦後間もなく荒廃した日本の復興を目指すことから始まったこの青年会議所の活動はこの飯塚の地にもすぐさま誕生し、激動の時代を地域社会の発展に寄与しながら個人の自己研鑽にも励まれた先輩方が今もなお、我々メンバーへ熱く語りかける姿に入会年数に関係なく深く感銘を受けたことと確信いたします。

もうひとつの担いに、10月に北九州の地で開催された第61回全国大会の支援がありました。全国から1万人以上集まる国内最大級の大会を日本JCの全国大会運営会議や福岡ブロック協議会と連動し北九州JCを支援いたしました。副主管であるが故に当日は行動が分散してしまったのが残念です。しかし会場設営や運営方法等、普段経験することのない規模の事業を体感する貴重な経験でありました。今後この経験を様々な事業で還元できるように努めて参りたいと思いません。



## 2012年度 ひとづくり委員会

委員長 塚本 大

子ども達に地域の人々との繋がりやコミュニケーションの大切さを伝えることを目的に、飯塚商店街18店舗の協力で「地域のひとの輪」でつくる職業体験事業「飯job体験ストリート～仕事を通して人と人の繋がりを感じよう～」を行いました。飯塚、嘉麻、桂川の小学4～6年生186名の参加者が集まりました。子ども達は本部での全体オリエンテーション後に好きな店を選び、各店舗へ向かいます。各店舗ではお互いに自己紹介を交わし、仕事の説明を受けた後、一人1時間、それぞれの店で仕事の体験を行いました。

子ども達はお店の人の指導の下、作業や接客の要領を覚え、それぞれの店舗で本格的な仕込みや商品の陳列作業が始まったり、子ども達の明るい大きな声での呼び込みの音が商店街中に響いていきました。仕事を終えたとお店の人からバイト代として「ポター」(当日限定商品券)がもらえます。お店の人に御礼を言った後、子ども達は買い物をして帰ります。自分が働いた対価で何が買えるのか、どんなものが商店街にあるのか、品物を探して



商店街中を走り回る子ども達。アンケートでは「お店の人とのやり取りが面白かった」「商店街にまた来たい」という声や店舗の人たちへの多くの御礼、商店街に来たいと、たくさんの子どもの声をきくと、本当にこの事業をやったよかったと思いました。



2012年度 福岡ブロックアワード最優秀賞受賞  
ひとづくり委員会「飯job体験ストリート」

## 2012年度 情報発信委員会

委員長 堤 考史

情報発信委員会は「地域の魅力を創造し発信する」委員会として、年頭よりホームページにFacebookと記録の残せる活動ブログを取り入れ、2月には2市1町の行政の方々との交流会を開催し、地域の魅力についての情報収集や連携強化を行いました。4月には、「地域への想い」が込められたJC運動の発信と会員拡大への取り組みとして飯塚JCの対外向けパンフレットを制作しました。7月1日は創立記念の式典を担当し、60周年に向けた諸先輩方の想いを集め、伝えました。9月の台風で中止となった「歩いて発見!まちの魅力!!」は、歩きながら、見て、食べて、知って、まちの魅力を体感できるウォーキング事業であり、現在の宿場町を訪れ、開通400年の長崎街道(内野宿から飯塚宿まで)を、ただ歩くのではなく、宿場町の歴史探索やシュガーロード体験(お菓子の試食)、まちの魅力クイズ、まちの魅力福袋、魅力発信大銀杏アートなど様々な仕掛けを創りました。実行委員会形式で2市1町と共催するのは飯塚JCでは初の試みであり、協賛店を含めると約40団体の協力がありました。そして、参加者の強い再開催の声もあり、11月に飯塚市中心の実行委員会



で来年も継続可能な内容に変えて開催できました。中止の事業でしたが、できなかったのではなく、できていたことに気付くことができました。

最後に本誌VOICEを制作し2012年の1年間の想いの詰まったJC運動を発信致します。まちの魅力を考え、多数の出会いの中で、充実した活動ができた1年でした。



2012年度

## 山笠アカデミー委員会

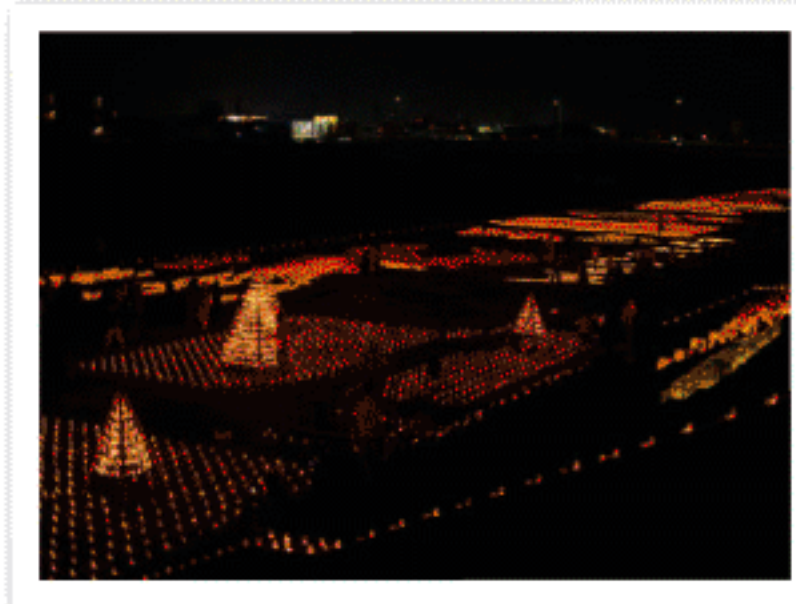
委員長 橋 重之

本年度、山笠アカデミー委員会では飯塚山笠振興会に出向し、今年は長崎街道筑前六宿開通400周年記念という事もあり、山笠イベントのわっしょい祭りをイオンショッピングセンター穂波にて集団山見せ、楳文発表、こども山笠教室を開催しました。

当日は飯塚中心商店街のよかもん通りに各流れが集結し、飾り山笠を先頭に会場までの道のりを飯塚警察署のご協力により暴力団追放運動・飲酒運転撲滅のパレードを行い、会場では暴力団追放運動・飲酒運転撲滅宣言をすることができました。今回はイオン会場に観覧席を作って頂き、福祉団体の方々162人を招待し、集団山見せ等を見て大変喜んで頂きました。後日、御礼状やお手紙、山笠の絵なども送って頂き本当に喜んで頂いたと感じました。この事業を通し、より多くの方々に山笠の魅力を知って頂き、より市民祭にふさわしい事業ができたと思います。

また、今回で10回目となりました。飯塚灯明祭ではコスモスコモン横の河川敷で3万の灯明を使い日本一の規模に挑戦しました。

今回は願い事等を書いた竹灯明や立体灯明を作り、点火前には鼻祖八幡宮の祭典により本格的な祈願をする事もでき、閉校となる菰田中の卒業生が瓶灯明で文字を作り、最後の思い出作りにも協力する事ができました。



また、事業前にはテレビやラジオ等で飯塚灯明をPRでき、事業終了後には新聞社3社に掲載され多くの人たちに飯塚灯明を知って頂けたと思います。協力して頂いた方や、来場して頂いた方に「感動した、来年も絶対に来るから」と言われ、私自身も感動し、飯塚灯明祭を開催できて本当に良かったと思います。

2012年度

## まちづくり委員会

委員長 渡部 雅文

コミュニケーションが、人と人とのつながりを創り、地域を活性化させるのではないかと考え、飯塚、嘉麻、桂川の小学4～6年生を対象に、1班4人体制で、6班の合計24名、近短生10名前後で「子どもアイデア料理コンテスト」を開催しました。

事業前の1ヶ月間の土曜日を利用して4回のコミュニティ会議を行いました。子ども達と近短生で自己紹介やお友達の紹介、どんな料理にするかの作戦会議を行い、何度も試作品づくりを繰り返し、1班150食、6班で900食の販売を目指して、1食250円で販売しました。

子ども達は、来場者の方々と一生懸命コミュニケーションをとりながら販売し、子ども達の販売する大きな声がコスモスコモン広場いっばいに響きわたっていました。

子ども達のアイデア料理を、飯塚、嘉麻、桂川の飲食店舗20店に協力してもらい、1品でも多く各店舗において、さらに来店して頂いたお客様とのコミュニケーションがとれるように各料理の説明をフライヤーにして設置します。

最後に、子ども達のコミュニケーション力、アイデア・販売能力は本当に驚かされました。何より、子ども達の笑顔が素晴らしかったです。



2012年度

## 例会委員会

委員長 新川 修

本年度例会委員会ではメンバー間の「交流」をテーマに活動を行ってまいりました。

意見を交わし、考えを知ることが互いの理解を深め、仲間としての絆を強めることができると考えて、アワーでは意見交換の場を積極的に取り入れました。

アワーの取り扱いテーマは、「人間分析」から始まって、話題のソーシャルネットワークサービスの「フェイスブック」、スポーツ例会では、競技ではなく各自の体力測定を行い、体力の低下を実感するとともに、体力維持の必要性を感じていただきました。また、死生学を取り入れたアワーでは「死」について学び、今を生きる大切さを改めて考えることができました。その他に「知ってる?」と題しまして、シニアの先輩にご協力をいただき、地域の歴史や文化を学びました。経済についても「金融」を中心に学ぶ機会を提供し、ゲームを通して為替変動の仕組みを学ぶなど、講義と実践を通して互いに言葉を交わす機会を作ってきました。

年度後半では、手品師を講師として「手品」をテーマとした家族例会で大いに盛り上がり、公開例会では「笑い」をテーマに上方落語家の三代目桂春蝶氏をお招きし、コスモスコモンにて講演と落語を行いました。そして「脳」をテーマに知能について学び、最後に私たちの事業等に関わり、ご協力いただいた関係者に対して事業報告を行う報告例会を実施しました。



2012年度

## 総務委員会

委員長 岡部 稔

本年度、総務委員会では、総会運営、準会員オリエンテーションに加え、一般社団法人格取得に向けての定款変更、台東国際青年商会への友好訪問、忘年会懇親の部という大きな3つの担いを持ちそれを遂行いたしました。

まずは、総会運営に関して社団法人飯塚青年会議所において総会とは最高の決定機関である事を、総務委員会のメンバーひとりひとりが自覚し、丁寧かつ慎重に行い2回の定時総会、3回の臨時総会をスムーズに運営できたと思います。準会員オリエンテーションにおきましても、準会員に対し基本的な知識やマナーを伝えられたのではないかと感じております。一般社団法人格取得に関する取り組みにおきまして、委員会メンバー一丸となり、骨子となる定款の精査変更、および総会での説明・審議を経て取得に関して大きな前進ができたのではないかと考えます。

台東国際青年商会への友好訪問に関しましては、台北において世界会議が開催される時期と同時期になり、大変あわただしくはなりましたが、台東国際青年商会とJC運動の事や熱意を語り合い、お互いに刺激を経て貴重な経験ができました、それを今後のJC運動に活かしていければと思います。

忘年会懇親の部に関しましては、卒業生が気持ちよく卒業できる懇親の部を考え運営を行いました。

最後に総務委員長として、1年間とてもやりがいのある担いで勉強になりました。そのなかで委員会メンバーが支え助けていただいた事でこの担いを遂行できたのだと感じております。



# 創造街道

～一年間の歩み～

～己を信じて明るい未来～



2013年度スローガン

我が成長こそが明日を切り拓く

— 60年目の原点回帰 —



一昨年(2011)の3月11日 東日本を襲った大震災、福島で発生した原発事故。これらは私たち日本人にとって決して忘れてはならない出来事です。現在でも解決の糸口すら見えぬ多数の方が避難生活を強いられています。このような事態を目の当たりにして、私たちは「今、自分たちで出来る事をやろう!」と、行動を興しました。このことは、60年前の7月1日、戦後の荒廃した日本、そして愛する地域の復興と発展のために社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)を創設した先輩方と同じ思いであり、それは60年の歳月を経て変わる事のない私たちJAYCEEの魂であると考えます。

私たち、飯塚JCは「明るい豊かな社会の実現」という目的の為に運動を行う団体です。その運動は、多様化する社会の中で時代と共に変化してきました。しかし、どんなに社会や時代が変わっても、愛する人のため、地域のために自らが動くという想いは、変わることなく受け継がれてきました。

本年度は創立60年という節目の年です。この飯塚JC60年の歴史を振り返り、飯塚JCの原点である、「私たちの愛する人、まちのために出来ることを、私たちが先頭に立って行う」、という想いを今一度確認し、気持ちを新たにすると致します。それにより飯塚JCが、今よりも一層、地域に必要とされ、この地域の発展のためにはなくてはならない存在となる為の、大きな力になると確信します。

◇創立60周年を迎えて◇

飯塚JCは本年、創立60周年を迎えます。30年前に諸先輩方が掲げた「嘉飯山はひとつ」という理想は現在においても未だ達成出来ておりません。しかし、現在の飯塚市、嘉麻市、桂川町が一体となることは、今後地域のあらゆる部分において、活性化を実現して行くためには必要不可欠であります。地域の一体化とは行政間の繋がりも必要ですが、私たちが含めこの地域で生活する人々の心の繋がりこそが最も大切であると考えます。そこで本年度我々飯塚JCは、60周年記念事業として2市1町の行政、地域と今よりも更に深く関わり、各行政間、市民との架け橋となり、我々が活動するふるさとをより一層活性化させ、地域の皆様にも愛される様な60周年事業を行います。その為にはまず、私たちと同じ志を持って活動されている各団体や行政との情報交換の場を持ち、地域に本当に求められる事業を行うことで、地域の皆様は勿論のこと我々JAYCEEにとって、より大きな結束を築けると考えます。そのような創立60周年記念事業を行うことで創立当初から我々飯塚JCが目指した明るく豊かな社会へ繋がると確信いたします。

◇己に克つ会員育成 組織力開発◇

本年度はこの60年目という節目を機に、会員個人とそれに伴う組織力育成を内部活動の大きな柱と致します。我々、青年会議所の活動理念である三信条「修練・奉仕・友情」のうち、本年は「修練」に重点を置いてJC運動を行ってまいります。「修練」を今まで以上に意識して活動することで、自らの成長に繋げる年を目指します。

一言に修練と言いましてもその内容は一人ひとりの人間性や置かれている立場により多岐に亘ります。しかしあらゆる場面において、的確な判断を下し、成功を掴み取るためには多くの経験と知恵が必要であり、その不足を補うものは強い意志と考え続ける力です。時には自分に負けそうになるかもしれません。だからこそ自分の弱さに克ち、今日の自分よりも明日はさらに成長していくという強い志が必要となります。

そのために、本年度は例会等の内部事業において強い己の確立を目指す会員育成に取り組みます。また、個人の会員育成は結果として素晴らしいリーダー育成のための組織力開発へと繋がるものと考えます。これらの事に精一杯取り組むことで飯塚JCの事業が成功するだけではなく青年経済人としても大きく成長できる一年になるものと確信いたします。

社団法人飯塚青年会議所  
第60代理事長



藤木 秀憲

◇次代を担う子どもこそ地域の宝◇

このふるさとの10年後、20年後を輝かせるのは、今この時代を生きる子どもたちです。彼らがこの地域を心から愛し次代を担えるように成長する為に、先を見据えた人材育成を担うことも我々JAYCEEの責務です。今後、彼らがたくさんの人や物事と関わりながら成長していく中で、すべての事柄に感謝の気持ちを持って接することは勿論のこと、そのような環境を我々大人が創って行くことも非常に重要になります。

この地域が笑顔の溢れる素晴らしいふるさとになるために、家族だけではなく自分が生活する上で関わる全ての人々に心から感謝を込めて「ありがとう」を言える素直な子どもに育って欲しいと切に願います。そのために、今一度感謝の気持ちが溢れていた時代の子育てのあり方を見直し、自分がたくさんの人々によって支えられていることに気づくことができる事業を行います。それにより、このふるさとの10年後、20年後を明るく輝かせることが出来る、思いやりと素直な心を持った次代を担う人材育成が出来ると考えます。

◇魅力と活力のあふれる地域開発◇

私は青年会議所に入会する以前はこのまちに魅力を感じていませんでした。しかし、それは私がこのまちについて何も知らなかっただけであり、入会後にJC運動を通して本気でこのまちの事をいろいろな角度から考え、知っていくにつれて、このまちの魅力を感じることができ、様々な機会や人に接することでやがて私の中に強い郷土愛が生まれてまいりました。

本年度、私が目指す「まちづくり」とは新しく何かを創り出すというだけではなく、むしろこの地域に潜在している魅力を掘り起こし、それらにもう一度光を照らし、輝かせることだと考えております。例を挙げれば、かつてこのまちには、全国でも有数の産炭地として栄えた歴史があり、その時代のまちの記憶は、形として現在もあちらこちらに残っています。そのようなこのまちに纏わる特色、すなわち魅力を掘り起こし、地域内外のたくさんの人たちに発信していくことこそ私たちの務めです。我々がこのまちを心から愛し、自分たちがやるという強い思いを持って率先して行動していけば、このふるさととは必ずや今よりも大きな輝きを放てることと確信いたします。

◇最後に◇

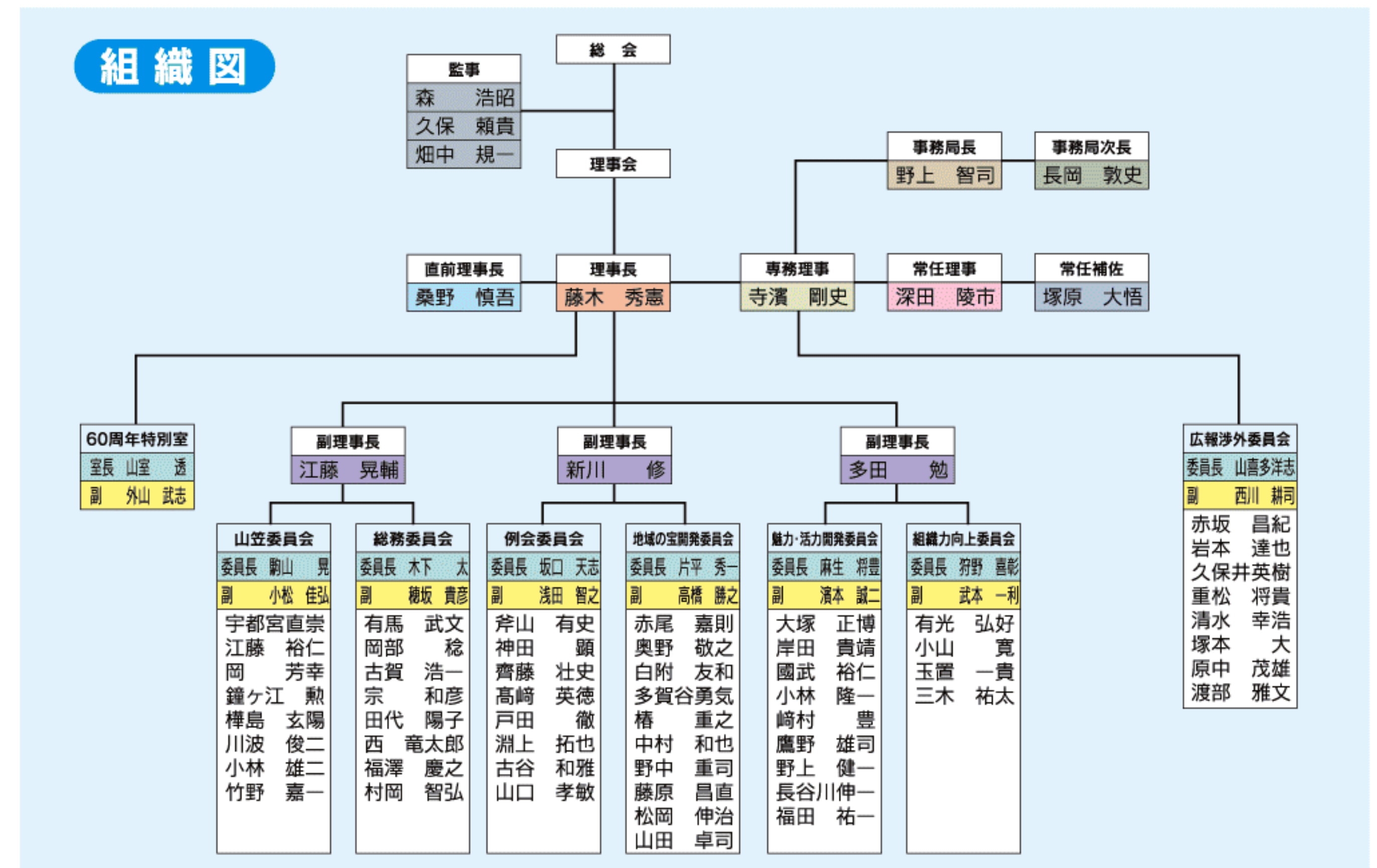
青年会議所には自己を成長させるチャンスがたくさんあります。それを掴み取り、自分のものに出来るかどうかは自分次第です。行動した結果について反省するか、やらずに後悔するか。反省することは次のステップへとつながりますが、後悔は何も生みません。だから私たちは愛するふるさとのために何が出来るか、何をすべきかを己に問いながら行動します。その経験が個々の成長の糧となり、ふるさとの発展を支える底力になると確信し、明るい未来を信じて挑戦し続ける覚悟です。

【基本方針】

- 一、愛するふるさとのために
  - 次代に繋がる創立60周年記念事業の実施
- 一、まちの力底上げのための会員増強
- 一、自己の成長に繋がる例会運営
- 一、リーダー育成のための組織力開発
- 一、感謝の気持ちを持てる人材を育てる地域の宝開発事業
- 一、まちの魅力を掘り起こし、
  - ふるさとがもっと好きになる魅力・活力開発事業
- 一、まちの元気を支える山笠運営
- 一、一般社団法人制度元年に向けての取り組み

JCI 2013年度 会員紹介

<b>理事長</b> 藤木 秀憲 フジキ印刷機	<b>直前理事長</b> 桑野 慎吾 御薬野電気工事	<b>副理事長</b> 江藤 晃輔 働エトウ時計店	<b>副理事長</b> 新川 修 新川工業機	<b>副理事長</b> 多田 勉 働多田組
<b>専務理事</b> 寺濱 剛史 働エス・シー・エム	<b>常任理事</b> 深田 陵市 働南星観光	<b>常任補佐</b> 塚原 大悟 働めがねのツカハラ	<b>事務局長</b> 野上 智司 働のがみ組	<b>事務局次長</b> 長岡 敦史 働ジェイ・イー
<b>監事</b> 久保 頼貴 久保自動車機	<b>監事</b> 畑中 規一 働荒木食品産業	<b>監事</b> 森 浩昭 働玉置		



魅力・活力開発委員会

委員長 麻生 将豊  
トヨタ自動車九州機



このまちには様々な歴史やものがありますが、そういった事柄には住んでいるまちだからこそ気付いていない魅力があると思います。そういったものに、再度スポットライトを当て、その良さを再認識することで、まちを活性化させる要素があるのではないかと考えます。我々、社団法人飯塚青年会議所では60年の歴史の中で、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、様々な活動や事業を行ってまいりました。これらを通して、まちの魅力を

この地域に住む人々に伝え、活力を与えてこれたと確信します。そこで当委員会では、この流れを継続すると共に、新しい発想や考えを加え、地域外の人に対して、このまちの魅力を発信し、より多くの人たちがまちを訪れる事業を行います。その中で、地域の人々には、まちの魅力を新たな可能性があることを知ってもらうことで、まちの発展を期待し、まちに対しての想いを活性化させることが出来ることと確信します。この想いを抱いた人たちが、まちの魅力をアピールし、まちに多くの人々を呼び込み、活力を与えていくことが出来れば、今まで以上に発展することができ、「魅力と活力が溢れるまち」になると確信します。

魅力・活力開発委員会 メンバー

<b>副委員長</b> 濱本 誠二 福豊帝酸機	大塚 正博 働三信ビル管理	岸田 貴靖 三協技建機	國武 裕仁 働システムハウジングタイセイ	小林 隆一 (資) 小林硝子店
崎村 豊 働崎村組	鷹野 雄司 タカノ歯科医院	野上 健一 DEEP	長谷川 伸一 働ワーキングハセガワ	福田 祐一 働福田電気商会

# 地域の宝開発委員会

委員長 片平 秀一  
（株）三豊



社団法人飯塚青年会議所は、明るい豊かな社会の実現を理想として、地域社会のために様々な取り組みを行っています。その取り組みの一環として、地域の宝であり、未来への希望でもある子どもが、次代の担い手としてふるさとを輝かせることが出来るように、子どもに対して先を見据えた人材育成に取り組むことは、欠くこと出来ない重要なものであると考えます。

現在の子どものとりまく環境は、少子化や核家族化といった家庭環境の変化などを背景に、児童虐待やいじめなど、子ども自身に重大な悪影響を与える問題が増加傾向にあります。今の自分さえよければよいといった風潮は、子どもやその未来に関心が薄くなっている大人にも責任があるのではないのでしょうか。このような状況を少しでも変化させていくためには、親に限らず地域の大人が子どもとしっかりと向き合い関心を深め、地域の暮らしに子どもが中心となって活動する機会を

用意することが必要だと考えます。そこで当委員会では、地域の大人が子どもへ、思いやりや助け合いの心を、ふれあいを通じて教え伝えられるように取り組みます。大人と力を合わせて物事に取り組むことが出来る機会を用意したいと考えます。人々とのふれあいを通じて、社会性や協調性など子どもの成長を促します。その取り組みの中で、大人は子どもの活動を支援することで関心を深め、子どもは大人の支援に対して感謝の気持ちを抱けるように、お互いが多い人々によって支えられていると感じていただける活動を行います。その結果として、子どもが、これから関わる全ての方々に「ありがとう」と素直な心で言えるようになり、自身の実感した思いを、次世代へ伝え、将来この地域がさらに笑顔の溢れる素晴らしいふるさとになるよう次代を担う、人材になると確信いたします。また当委員会では、三大自然の一つ忘年会を、卒業されます方々へ感謝の気持ちを込めて、企画し運営させていただきます。

## 地域の宝開発委員会 メンバー

 副委員長 高橋 勝之 くろみ電工	 赤尾 嘉則 株赤尾組	 奥野 敬之 株カイト	 白附 友和 株佐藤測量設計	 多賀谷 勇気 株イオス
 椿 重之 株中本不動産	 中村 和也 株福岡クリエーション開発	 野中 重司 株光代自動車整備工場	 藤原 昌直 株藤原園芸	 松岡 伸治 株アンシン
 山田 卓司 株山田建巧				

# 広報渉外委員会

委員長 山喜多 洋志  
（株）イツカベンディング



1953年7月、高き志を持つ35名の青年達により社団法人飯塚青年会議所(以下飯塚JC)は誕生いたしました。それから60年の間、代々受け継がれてきた先輩方の志に敬意を表します。この社団法人飯塚青年会議所創立60周年という節目の年、様々な事業を行うにあたり広報渉外委員会の位置づけは重要になって参ります。

響を与えました。その一方で地域のつながり(絆)を大切にしたいフリーペーパーという昔ながらのアナログなツールも無視することはできません。今年度は更なるホームページの充実を図るとともに、より早く、より正確な情報発信に努めて参ります。また、地域の情報誌を活用することで幅広い年齢層への情報発信につとめて参りたいと考えます。古き良きものは残しつつも時代の変化に合わせた広報活動を取り入れ、一人でも多くの方々にJC運動を発信することで地域の活性化と共に飯塚JCの活性化に繋げて参ります。

時代の流れは年々速さを増すと共に、このまちも大きな変化を遂げて参りました。宿場町として栄えた時代が過ぎ、炭鉱のまちとして全国に名を轟かせた時代も終わりを遂げたとき、先人たちの「この地域を少しでもよくしたい」とそんな高き志(想い)が様々な活動を生み、今日の私たちのまちの姿へと結びついたのでないでしょうか。広報渉外委員長を拝命するにあたり、その志や活動をひとりでも多くの方々に伝え知っていただきたいと考えます。

質の高い情報発信のためには各委員会との連携は欠かせません。情報共有を図り、それを基に行政や各種団体と協力し、飯塚JCの事業目的を様々な手法を使って各方面に発信して参ります。また地域の皆様とふれあい、ひとりでも多くの市民の方々に、このまちの魅力伝えていく事業を行います。誰の為、何の為にJC運動を行うのかを明確に発信していくことにより、正確に伝え、人々の心に届けることができたとき、JC運動はさらに多くの人々に認知され、愛するこのまちに、そして多くの市民の方々に親しまれるものになると確信いたします。最後に、委員会メンバーの一致団結とJAYCEEとしての意識付けにつながるよう、年間取り組んで参ります。

その手法を振り返りましてもこの60年の歴史と共に様々な変化を遂げて参りました。IT社会と言われる現代においては、生活の一部になりつつあるインターネット環境を使った情報発信が主流となっています。ホームページやソーシャルネットワークといった様々な情報発信の手法が広がり、情報の発信・伝達と範囲に大きな影

## 広報渉外委員会 メンバー

 副委員長 西川 耕司 株西川歯科医院	 赤坂 昌紀 株緑野園	 岩本 達也 株イワキン工業	 久保井 英樹 株クボイ	 重松 将貴 株飯塚ダイハツ販売(資)
 清水 幸浩 株瑞建工務店	 塚本 大 株中央産業	 原中 茂雄 株KRC桂川	 渡部 雅文 株居酒屋と"KOKORO"	

# 総務委員会

委員長 木下 太  
（株）東京食品



社団法人飯塚青年会議所(以下飯塚JCとする)は、愛するふるさとの復興と発展のために1953年7月1日に創設されました。本年度飯塚JCは創立60周年という新たなスタートアップポイントを迎えようとしています。

2008年12月に施行された公益法人制度改革3法により、2013年11月末までに、公益社団法人・一般社団法人のどちらかを選択しなければいけなくなり、飯塚JCは一昨年(2012年)の6月総会において一般社団法人格を目指すことを決議し、昨年より「一般社団法人飯塚青年会議所」の骨幹となるべく、定款の見直し及び変更を行ってきました。本年度はこれからの飯塚JCの方針や考え方に沿って、飯塚JCメンバーが地域の活性化を目指し、かつ地域と繋がるJC運動を円滑に出来るように運営規定の見直し及び変更を行い、一般社団法人格の取得を目指します。

## 総務委員会 メンバー

 副委員長 穂坂 貴彦 株農事組合法人 穂坂牧場	 有馬 武文 株御有馬クレーン	 岡部 稔 株御初音	 古賀 浩一 株セントコーポレーション	 宗 和彦 株やしませ整骨院
 田代 陽子 株福岡カホスインダストリアル	 西 竜太郎 株西組	 福澤 慶之 株上置積貨物自動車運送	 村岡 智弘 株村岡食品	

# 組織力向上委員会

委員長 狩野 喜彰  
（株）カノ住建



私は、入会当初、青年会議所のメンバーが何のために一生懸命活動を行っているのか、理解することが出来ませんでした。しかし、先輩方やメンバーに誘われ、会議や懇親会に出席していくにつれ、多くの方々に出会い、その方々と論議することで、自己の成長に繋がることを知り、青年会議所での活動に率先して参加するようになりました。また事業に参画した時、地域の方から「ありがとう」と言った言葉や笑顔を目の当たりにすることで、もっと多くの方々に喜んで貰いたいという目的を見出し、更なる自分の成長や目的のためにも委員長としてJC運動をやりたいと思えました。このようなことから、自己の成長のためにしっかりと目的を持ち責任ある行動をする仲間を一人でも多く増やすことが組織力の向上に繋がると考えます。

そこで、当委員会では、「まちの力底上げのための会員増強」を行い、自己の成長のためにしっかりと目的を持ち責任ある行動を身につけてもらうために、新入会員の育成に邁進します。まずは、新入会員の育成を行うためにも、会員の増強を全メンバーで取り組む意識づくりに努め、一人でも多くの方々に入会していただきます。そして入会された方が、十人十色の考えを持つメンバー全員に出会い、その中で青年会議所の魅力を感じてもらうために、総会・例会(懇親会等)に積極的に参加するように導きます。また、新入会員に事業の企画・運営を行ってもらい、しっかりと事業目的を持ち、その目的を達成させることで、自己の成長に繋がることを実感していただきます。そして新入会員が「今の自分よりも明日はさらに成長していく」という強い志を持つことが、更なる組織力向上に繋がると確信します。

## 組織力向上委員会 メンバー

 副委員長 武本 一利 株C.F.C.company	 有光 弘好 株皇祖神社	 小山 寛 株小山産業	 玉置 一貴 株玉置	 三木 祐太 株三木
-------------------------------------	--------------------	-------------------	------------------	------------------

# 山笠委員会

委員長 駒山 晃  
（株）綿惣



本年度、社団法人飯塚青年会議所(以下飯塚JC)は60周年という節目を迎えます。「明るい豊かな社会」の実現のため、我々の先輩方は様々な事業を行ってこられました。我々青年会議所に所属するものは、先輩方の培ってこられた歴史をしっかりと認識し、意志を受け継ぎながらもさらなる発展を遂げなければなりません。これまでのJC運動を鑑みると単年度の事業が多い中、我々飯塚JCは「市民祭飯塚山笠」と「灯明」という2つの事業に長年関わってまいりました。本年度山笠委員会(以下当委員会)では、この「市民祭飯塚山笠」と「灯明」に加え、飯塚JCの三大自然の一つである「新春祝賀会」という3つの担いがあります。本年度当委員会の方針としていたしまして、山笠に関しては、「市民祭飯塚山笠」

43年の歴史を委員会メンバー全員がきちんと理解し、今後飯塚JCとしてどう関わっていくかは「まちの元気を支える」ことが出来るかを考え、実行します。灯明に関しては、多くの方々に参加してもらうことによってJC運動をより深く知ってもらう機会を提供し、また、灯明が地域の活性化につながる事業になるようにいたします。新春祝賀会に関しては、60周年という年の初めを飾る新春一大行事として、一人でも多くのメンバーが参加し、ご臨席頂いているすべての方々を丸ごととおもてなしすることで、飯塚JCの団結力をより一層高め、一年間を通し現役メンバーが高いモチベーションでJC運動に参画出来る機会となるよう企画・運営いたします。最後に、今年度の当委員会はJC運動に率先して取り組み、苦勞や喜びを共有しながらメンバー一人ひとりが昨日の自分よりも成長できたことと実感できるような委員会運営を目指し、「担ぎ支え一つの方向に向かう」という山笠精神で事業を全うします。

## 山笠委員会 メンバー

 副委員長 小松 佳弘 株パーソナルクラスアイク	 宇都宮 直崇 株農八幡宮	 江藤 裕仁 株トーン	 岡 芳幸 株御笠置建工	 樺島 玄陽 株龍王ガス
 川波 俊二 株トラベルウィズ	 鐘ヶ江 勲 株飯塚信用金庫	 小林 雄二 株ぼつちゃんじつちゃん	 竹野 嘉一 株飯塚信用金庫 庄内支店	